

宝塚市下水道ビジョン2035が始まります！

市民のみなさまの生活基盤を支える重要な社会インフラとしての役割を果たすため、これからの10年間に取り組むべき事業と、その目標を定めます。



- 局地的大雨に備えた
浸水対策に取り組みます。

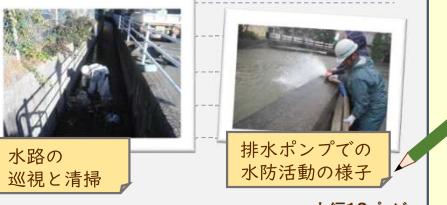


本編14ページ

令和6年能登半島地震を
きっかけに
上下水道一体での耐震化に取り組みます。

本編
16ページ

- 市民のくらしを守るため
防災・減災対策に
取り組みます。



本編18ページ

安全・強靭

~ 大雨や地震などの災害から市民のくらしを守り備える ~



安心・快適

~ 市民の快適なくらしを保つ ~



安全で持続可能な「宝」の下水道を未来へ

安定 経営

~ 経営基盤を強化し、効率化・合理化を推進する ~



連携・協働

~ 市民の下水道への理解を形成し、民間企業や上水道との連携を強化する ~



宝塚市下水道ビジョン2035を
支える基本理念と
4つのキーワード！

詳細は「経営戦略」をご覧ください！

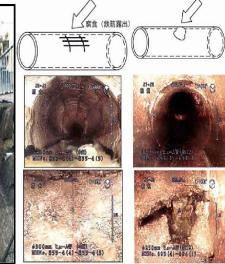
持続可能な経営にするため、料金体系などを検証します。

積極的な国庫補助金の活用を目指します。



本編32ページ

下水道施設の劣化状態を詳細に把握し、修繕や改築につなげ、汚水の水質を監視するなど、適切に維持管理します。



テレビカメラを入れて下水道施設を視覚的に調査

本編22ページ

令和7年1月に埼玉県八潮市内で起きた流域下水管の破損・道路陥没事故を教訓として、**老朽化対策**を強化します。



本編28ページ

災害対策に関する情報など、満足度の高い情報発信を目指します。

官民連携などにより、市民サービスの向上を目指します。



マンホールカードを指定の施設で配布しています！

上水道、近隣自治体との連携を目指します。

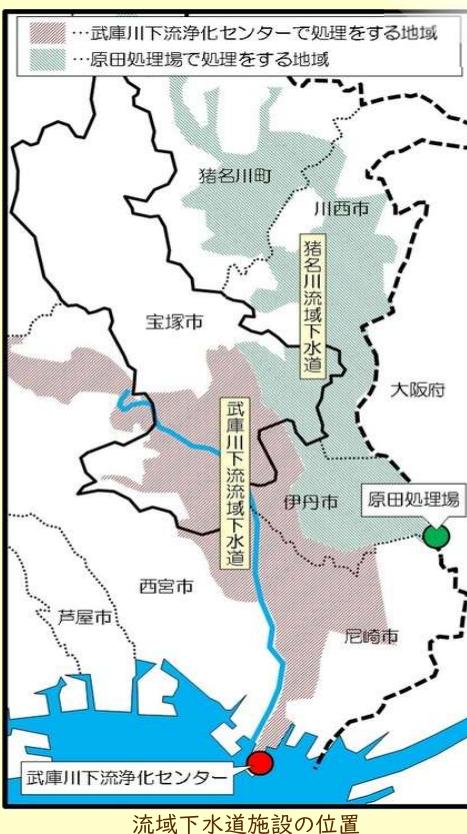
本編38ページ

宝塚市の公共下水道

汚水処理・雨水処理としての下水道の役割

毎日のくらしのなかで、台所、洗濯、炊事、風呂、トイレなどから出る生活排水や工場などから出る排水を汚水と呼びます。下水道は、この汚水を適切に処理し、「快適な生活環境の保全」及び「公共用水域の水質保全」に寄与する役割があります。本市の汚水処理は、南部地域と北部地域とで処理方式が異なり、南部地域では公共下水道に接続し、また、北部地域では合併処理浄化槽を設置し処理を行っています。なお、本市は都道府県が保有する終末処理場へ2以上の市町村が接続し処理を行う武庫川下流域下水道と猪名川流域下水道の2つの流域下水道へ接続しています。

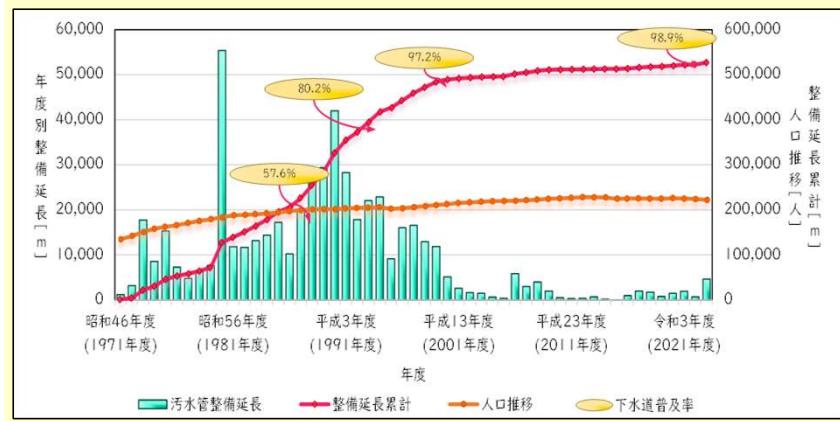
また、下水道は汚水処理のみならず、「浸水の防除」のための雨水排水の役割も担っており、本市では汚水と雨水を分離して排除する方式である分流式を採用しています。雨水事業については、1時間当たりの雨量46.84mm(6年に1回の確率)の降雨強度を対象に雨水排水計画を策定しています。



下水道整備と人口普及率の変遷

本市の下水道(汚水)管路施設は、昭和46年度(1971年度)から整備を開始しました。その後、人口が増加した昭和50年度(1975年度)頃から震災の直前まで集中的に整備し、下水道(汚水)人口普及率は8割を超みました。「宝塚市私道排水設備工事助成制度」を設け、私道部の管渠布設を支援し、また、市民の水洗化工事に対して補助金または貸付金による助成制度「宝塚市水洗便所改造資金助成制度」を実施することでも、

下水道(汚水)人口普及率と水洗化率の向上に努めきました。その結果、令和5年度(2023年度)末時点の下水道(汚水)人口普及率は、市全体で98.9%、北部地域の合併処理浄化槽の処理人口を除く市街化区域のみでは99.8%となっています。また、管渠の総延長は約539km、水洗化率は99.6%であり、整備・普及ともに概成しています。



下水道(汚水)管路整備延長と人口推移、下水道(汚水)人口普及率

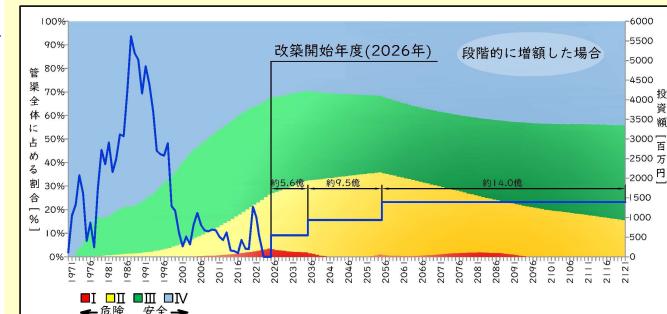
宝塚市は2つの流域下水道・処理場につながっています

【宝塚市下水道ビジョン2035・概要版】

宝塚市公共下水道事業の現状と基本課題

【下水道ストックマネジメント計画の推進】

本市では老朽化管渠の増加に伴い改築事業への投資額(建設改良費)を段階的に増加させ、施設全体が比較的健全な状態に保たれるよう、計画的かつ効率的に下水道事業を推進していく必要があります。このように、施設の状態と効果的な投資を検討したものが下水道ストックマネジメント計画です。



投資額と管渠の緊急度予測結果

【計画的な投資を支える財源の確保】

将来にわたって安定的かつ持続的に下水道サービスを提供していくためには、計画的な投資を支える財源を確保していく必要があります。今後は人口減少などにより一層、経営環境が厳しくなることから、使用料改定により、適正な使用料収入の確保に努める必要があります。



本市と類似団体平均との使用料単価
及び汚水処理原価の比較

Point!

- ・公共下水道事業の抱える課題が顕在化してきた現在、これまでの10年間とこれからの10年間では公共下水道事業に求められることや取り組むべきことが異なってきました。
- ・より効率的かつ効果的に事業を運営していくため、抜本的に考え方を変えるべき部分と、普遍的な課題として踏襲すべき部分を見極め、本市の課題を改めて抽出しました。
- ・人口減少等による収入減少が見込まれる一方、施設の更新や耐震化に多くの費用が発生することから、多様な課題に対応するための方針として、「宝塚市下水道ビジョン2035」を策定します。